九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

清華簡伊尹文獻に關する研究

横山，慎悟

https://hdl.handle.net/2324/7329397

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (4)

KYUSHU UNIVERSITY

（様式６－２）

氏　　名	横山　慎悟
論　文　名	清華簡伊尹文獻に關する研究
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教　授　　南澤　良彦 副　査　　九州大学　　教　授　　川平　敏文 副　査　　九州大学　　講　師　　内田　敦士 副　査　　広島大学　　教　授　　末永　高康

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

上記の論文は、中国の清華大学が 2010 年から公開を開始した「清華大学蔵戦国竹簡（清華簡）」に含まれる、伝説上の賢人である伊尹にまつわる五種類の説話文献（『尹至』『尹誥』『赤鳩之集湯之屋』『湯在啻門』『湯処於湯丘』）を主な対象として、それらの文化史上における位置の検討を目指すものである。

本来殷代の神格であった伊尹は、春秋期以降、学術・思想の伝播を目指す多くの勢力・学派よって様々なイメージを付与されたものと考えられるが、第一章「伊尹伝承の類型」では、春秋戦国期の伊尹説話に描かれた伊尹の出自や性格を複数の類型に整理する。

第二章「儒家文献と伊尹」では、古代儒家思想と伊尹伝説との関わりについて考察し、『尹至』・『尹誥』の記述が、君主の利益を臣下の行動規範とする旧来の思考様式が『孟子』型の思考様式へと移行する一過程と目され、伊尹伝説が、「新たな士人の倫理」としての儒家思想が発展する過程と強い結びつきがあったものと指摘する。

第三章「伊尹と宗教文化」では、様々な巫術・呪術の要素を鍵として展開する『赤鳩』説話に注目し、伊尹伝説の展開と信仰文化との関係について考察する。『赤鳩』説話に見える伊尹像が、巫術信仰の色濃い楚地において、自然や神格からの自立を強調する「天人の分」思想が展開した経緯を推し測る鍵となり得ることを指摘した点は大きく評価できる。

第四章「伊尹と身体認識にまつわる思想」においては、『赤鳩』『湯処於湯丘』に描かれる料理描写・『湯在啻門』の伊尹が説く身体生成の過程に注目し、三文献の身体認識や医術思想における位置について検討し、従来の文献に係る知見だけでは説明し得なかった戦国時代中頃の医術認識の一端を明らかにする。

結論では以上の検討を踏まえ、各伊尹文献から多種の文化事項に係る新知見を見出すことができること、そして多くの文化事項を集約させ、さらに新たな形式へと変化させた伊尹に文化の伝播における特異点としての意味合いも指摘できることの二点を確認する。その上で、今後の課題として思想史や宗教史、医術史等多くの領域と交わる伊尹伝説のより多くの分野に基づく検討、太公望・黄帝・禹等他の人物の伝説との比較検討等を展望する。

本論文は出土資料の中でも難解と言われる清華簡を読解して、先行研究を踏まえながら、先秦から漢代に至る関連文献を再読して、着実に成果を積み重ね、今後の出土文献と在世文献との総合的研究に少なからぬ貢献をなしたことに意義がある。

よって本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）を授与されるに相応しいものであると認めるものである。